

令和3年定例6月会議一般質問

| 質 問 者 | 質 問 事 項 及 び 要 旨 | 質 問 の 相 手 |
|-----------|--|-----------|
| 今 田 光 弘 | <p>選挙公約について</p> <p>2年前の町長選挙のとき、「町民あつての小値賀町」、「町民が主役の小値賀町」という理念の下、町長は町民の皆さんに、次の5点(具体的に何をするか、したいかにはあまり触れていないが)の実行を約束(公約)し、当選した。</p> <p>この公約の現在までの実績と自己評価を伺う。</p> <p>また、任期の残り2年でそれぞれをどのように進めていくか、具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>(1) 医師の2名体制</p> <p>(2) 地場産業の振興対策</p> <p>(3) 松枯対策</p> <p>(4) 牛の競り市場対策</p> <p>(5) 情報公開</p> | 町 長 |
| 近 藤 隆 二 郎 | <p>ふるさと留学および小中高一貫教育の基本コンセプトの必要性と「四半農工漁X」について</p> <p>小値賀町ふるさと留学は、「ここにしかない環境で都会では体験することの出来ない“島時間”を刻み、小値賀町を第2のふるさとにしてくれる留学」を訴えているが、数多くある候補地から小値賀町を選ぶには、やや漠然としているのではないか。</p> <p>また、本町教育の柱でもある「小中高一貫教育」の目標は、「一人ひとりの夢の実現」であるが、どのような「小値賀っ子」に育むことを目指しているのかが曖昧なように思われる。</p> <p>少子化を迎える時代にあつて、高校存続はとくに重要な課題であり、そのためにも、より具体的で魅力に富んだ教育のコンセプトを提起していくことが必要である。</p> <p>(1) より小値賀らしさが具体的に伝わるような、オリジナルに富んだ教育コンセプトを明確にする必要はあると思うがどうか。</p> | 教 育 長 |

| | | |
|--|---|------------|
| | <p>(2) 小値賀ライフスタイルとして「四半農工漁 X」という概念を提案したい。農的暮らし、漁家的な暮らし、大工や工芸の暮らし、プラス X (何でもよい) を身につけて学びながら暮らすライフスタイルである。ふるさと留学や小中高一貫教育においても、この「四半農工漁 X」を軸として打ち出してはどうだろうか。農家、漁家、大工のみなさんがそれぞれ地域講師としてサポートできるのは小値賀ならではの強みである。本島で生きていける術を学ぶことが、生活力向上の基礎となり、卒業後にも帰ってくる子を育むことになるのではないか。</p> | |
| | <p>「町民が主役のまちづくり」と「小値賀町民の未来像」について</p> <p>10年後、20年後の小値賀町はどうなっているのでしょうか。今の子どもたちが大人になったときに、町はあるのでしょうか。</p> <p>小値賀町が生き残っていくためには、将来の危機感をいち早く認識した上で、小値賀に棲むということは、どういったライフスタイル（生活様式）なのかという点を明示すべきではないか。</p> <p>(1) 西村町長が言うところの「町民が主役のまちづくり」はどのようにして実現されているのか。具体的にお聞きしたい。</p> <p>(2) 西村町長が目指す「未来の小値賀町民」の暮らしとはどのようなものであるか。「安心して暮らせる環境づくりと活力のあるまちづくり」は、やや漠然としているのではないか。小値賀の特性をふまえた上、人口高齢化と低成長期時代を迎えるなかで、より特化した具体的な将来像が必要ではないだろうか。たとえば、「四半農工漁 X」といった暮らし方を共通目標として目指すことで、教育、産業や移住、観光、といった各施策がぶれずに統合されていく可能性を持つと思われるがどうか。</p> | <p>町 長</p> |